



# Java Desktop System Configuration Manager Release 1.1 管理ガイド

---

Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 819-0953-10  
2004 年 12 月

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL, HG-MinchoL-Sun, HG-PMinchoL-Sun, HG-GothicB, HG-GothicB-Sun, および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, AnswerBook, AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: *Java Desktop System Configuration Manager Release 1.1 Administration Guide*

Part No: 817-7576

Revision A



041129@10536



# 目次

---

はじめに	11
<b>1 概念</b>	<b>13</b>
データ構造	13
構成設定の作成	15
ポリシーグループ	17
<b>2 使い方</b>	<b>19</b>
ログイン	19
▼ Configuration Manager へのログイン	19
Java Web Console について	20
ユーザーインタフェース	21
マストヘッド	21
ナビゲーション区画	23
「ユーザー」見出しページ	23
検索	25
▼ エンティティの検索	26
「ホスト (複数)」見出しページ	28
ポリシーリポジトリ	31
コンテンツ区画	34
「ポリシー」見出しページ	34
「ポリシーグループ」見出しページ	39
「割り当て先」見出しページ	41
「役割」見出しページ	41
「ユーザー」見出しページ	42
レポート	43

▼ レポートの作成	43
「レポート」ウィンドウ	44
ログアウト	46
ヘルプ	46
3 コマンド行インタフェースの使用	49
Configuration Manager CLI の概要	49
CLI による作業	50
CLI コマンドの呼び出し	50
CLI で必要となるブートストラップ情報	50
ユーザー名とパスワードによる認証	50
コマンドの実行	51
エンティティの表現	52
CLI コマンド	52
コマンドの要約	60
A 使用事例	63
背景	63
シナリオ 1 — アプリケーション起動の防止	63
▼ アプリケーション機能のロック	64
シナリオ 2 — 分散したプロファイルの管理	64
▼ 新しいポリシーグループの作成と構成	64
▼ “Expert” ポリシーグループの設定	66
シナリオ 3 — ローミングユーザー用のソリューションの提供	66
▼ プロキシ設定の変更	66
用語集	69

# 表目次

---

表 2-1	ポリシーグループのアクション	32
表 3-1	コマンド	60
表 3-2	オプション	61



# 目次

---

図 1-1	ツリー	14
図 1-2	結合	15
図 1-3	保護	16
図 2-1	Configuration Manager のメインウィンドウ	21
図 2-2	ナビゲーション区画	23
図 2-3	「拡張フィルタ」ダイアログ	25
図 2-4	「検索」ウィンドウ	25
図 2-5	検索結果表	27
図 2-6	「ホスト (複数)」見出しページ	28
図 2-7	「ドメインツリー」見出しページ	29
図 2-8	「拡張フィルタ」ウィンドウ	30
図 2-9	「ドメインツリー」検索ウィンドウ	30
図 2-10	「ポリシーリポジトリ」見出し	31
図 2-11	「ポリシーグループの優先度」ウィンドウ	33
図 2-12	コンテンツ区画	34
図 2-13	「ポリシー」見出しページ	34
図 2-14	「ポリシー」テーブル	35
図 2-15	「ポリシー」ページ	36
図 2-16	新しい特性の追加	38
図 2-17	「ポリシーグループ」見出しページ	39
図 2-18	「割り当て先」見出しページ	41
図 2-19	「役割」見出しページ	41
図 2-20	「ユーザー」見出しページ	42
図 2-21	「レポートの設定」ダイアログ	43
図 2-22	「レポート」ウィンドウ	44



# 例目次

---

例 3-1	エンティティへのポリシーグループの追加	52
例 3-2	新しいポリシーグループの作成	53
例 3-3	ポリシーグループの削除	54
例 3-4	ポリシーグループのエクスポート	55
例 3-5	ポリシーグループのインポート	56
例 3-6	リポジトリ内のポリシーグループの一覧表示	57
例 3-7	ログイン	58
例 3-8	ポリシーグループの優先度の変更	58
例 3-9	エンティティからポリシーグループを削除する	59
例 3-10	ポリシーグループの名前変更	60



# はじめに

---

このマニュアル『*Java™ Desktop System Configuration Manager, Release 1.1* 管理ガイド』では、Java Desktop System Configuration Manager の概念と使用方法について説明します。具体的には、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) の詳細、コマンド行インターフェース (CLI) などについて説明するとともに、よく行う一般的な作業の事例を紹介しています。

---

## マニュアルの構成

Chapter 1 では、Configuration Manager の概要を示します。

Chapter 2 では、Configuration Manager GUI の使用方法について説明します。

Chapter 3 では、Configuration Manager CLI で使用されるコマンドについて説明します。

Appendix A では、よく行う一般的な作業の事例を紹介します。

用語集では、このマニュアルで使用する用語と、その定義を示します。

---

## 関連情報

以下のマニュアルには、Configuration Manager の関連情報が挙げられています。

- 『*Java Desktop System Configuration Manager Release 1.1* 開発者ガイド』
- 『*Java Desktop System Configuration Manager, Release 1.1* インストールガイド』

---

## Sun のオンラインマニュアルの参照

docs.sun.com™ では Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は <http://docs.sun.com> です。

# 第 1 章

---

## 概念

---

Java™ Desktop System Configuration Manager, Release 1.1 は、アプリケーションを使用するユーザーまたはアプリケーションのホストマシンをベースに、デスクトップアプリケーションの構成設定を集中管理するツールです。Java Desktop System Configuration Manager を使用することで、管理者は組織の階層内に存在するさまざまな要素の構成設定を確認したり、それらの要素に構成設定を割り当てたりできます。特定のアプリケーションについての一連の構成設定は「構成ポリシー」と呼ばれ、「ポリシーグループ」としてまとめられます。これらの構成ポリシーは、企業組織の一部 (サブ組織またはユーザー) として割り当てられることも、あるいはデスクトップコンピュータ (ホスト) 階層の一部として割り当てられることもできます。

構成ポリシーは、Configuration Manager によって管理されているデスクトップセッションまたはアプリケーションをユーザーが開始する場合に適用されます。この際、アプリケーションを実行するユーザーまたはホストに関連したポリシーグループがすべて検出され、アプリケーションのローカルデフォルトとユーザーのカスタム設定にそれらの設定が結合されます。ポリシーを使用することによって、中央で管理している一連のデフォルトをアプリケーションに与えたり、必須の設定値を強制的に設定したりできます。

---

## データ構造

Configuration Manager は、3 種類の階層構造 (「ツリー」とも呼ばれる) を取り扱います。Configuration Manager のユーザーインタフェースを理解するには、3 つのツリーを識別する必要があります。

最初の2つのツリーは、「組織」ツリーと「ドメイン」ツリーです。組織のツリーは、下部組織などの組織単位とユーザー間の関係を表します(ツリーの最上位レベルは組織そのものであり、下位レベルはたとえば、部門、下部部門などであり、最下位レベルは部門のメンバーです)。ドメインのツリーは、ドメイン、ホストといったネットワーク要素間の関係を表します(ツリーの最上位レベルはネットワーク全体であり、下位レベルは各種サブネットなどであり、最下位レベルはサブネット内の実際のマシンです)。

Configuration Manager では、企業組織構造の典型的なリポジトリである LDAP サーバーのコンテンツを解釈することでこれらのツリーが得られます。LDAP における組織ツリー内の個々の場所は「エンティティ」と呼ばれます。LDAP サーバー内のエンティティは Configuration Manager によって認識される組織的なエンティティ(「組織」、「役割」、「ユーザー」、「ドメイン」、および「ホスト」)に対応づけられます。このプロセスの詳細は、『*Java Desktop System Configuration Manager, Release 1.1 インストールガイド*』を参照してください。

3つ目のツリーは、「構成ポリシー」ツリーです。このツリーは、ブラウズと編集に便利のように構成設定をまとめるために使用されます。階層の最上位レベルは通常、アプリケーションです。下位レベルはアプリケーションのさまざまなコンポーネントまたはモジュール(および下位コンポーネント、下位モジュール)に対応し、最下位レベルは実際の構成設定です。多数の設定が行われる構成システムの多くでは、類似した状況が見受けられます。たとえば、StarSuite™ や Mozilla™ では、HomeUrl 設定は、「設定」ダイアログ内の Mozilla/Navigator/HomeUrl にあります。

構成ポリシーは、組織構造またはドメイン構造のどの要素にも割り当てることができます。この結果、2つの「ツリーから成るツリー」、つまりポリシーツリーが入った組織ツリーと、ポリシーツリーが入ったドメインツリーが生成されます。図 1-1 は、この構造を図解したものです。

Configuration Manager インタフェースの一般的な構造によって管理者は、組織ツリーまたはドメインツリーの要素を選択し、続いてその要素にポリシーグループを割り当てたり、そのポリシーを編集したりできます。

組織団体ツリーとドメインツリーを使用した作業の考え方は同じです。この2つの大きな違いは、組織ツリーがユーザーで構成され、ドメインツリーがホストで構成されることです。Configuration Manager ではユーザーとホストが2つの個別のツリーに配置されるため、ユーザーベースの構成とホストベースの構成が行えます。この2つのツリーは似ているため、このマニュアル内のほとんどの節では組織ツリーに的を絞って説明しており、組織ツリーとドメインツリーで違いがある場合だけドメインツリーについても説明しています。

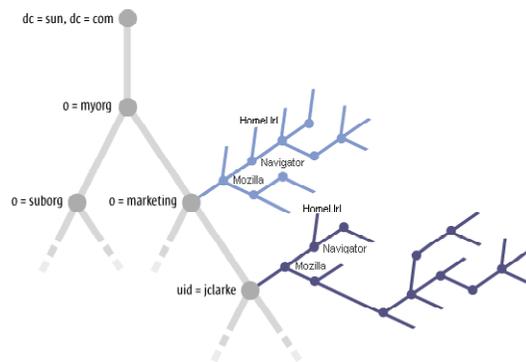


図 1-1 ツリー

## 構成設定の作成

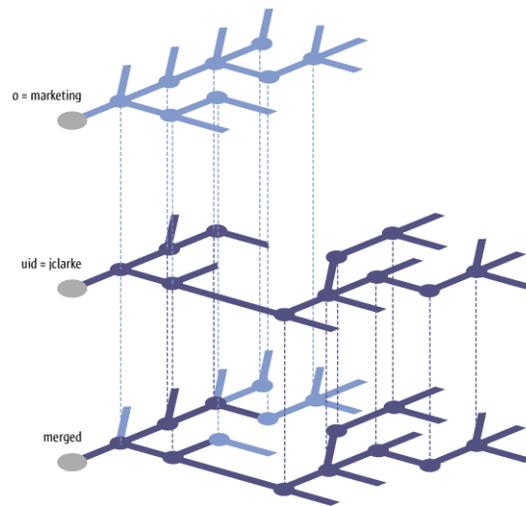


図 1-2 結合

特定のエンティティの構成設定は、そのエンティティに適用できるすべての構成ポリシーを結合することで得られます。この中には、エンティティそのものの設定ポリシーとともに、親エンティティの設定ポリシーも含まれます。たとえば、あるユーザー用の設定値では、そのユーザーに割り当てられたポリシーとともに、そのユーザーが所属している組織に割り当てられたポリシーが考慮されます。結合は継承によって行われます。つまり、ユーザーは組織構造の上位レイヤーで指定された設定値

を継承します。継承した設定値は、ユーザーに割り当てられたポリシーによって、ユーザーレベルで変更できます。このプロセスを図 1-2 に示します。この図では、「Marketing」組織の設定がそのメンバーの 1 人であるユーザー jclarke によって継承され、それらの一部が jclarke のポリシーによって上書きされる状況が示されています。

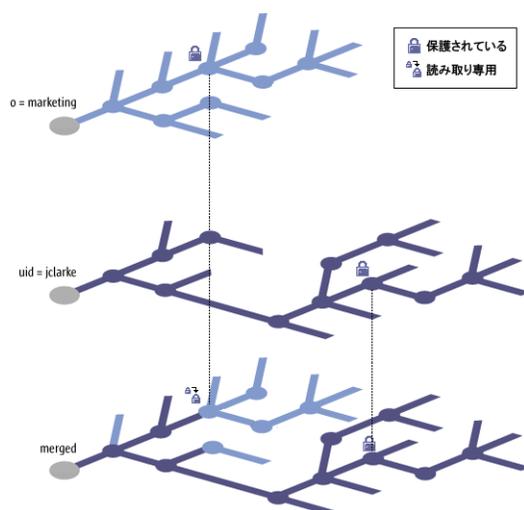


図 1-3 保護

ポリシーの一部の要素を保護すると、継承された設定値が継承の下位レベルによって上書きされないようになります。この処置により、管理者は後続ポリシーで、またはデスクトップ上で稼働している管理対象アプリケーションでは変更できない、必須の設定値を定義できます。このプロセスを図 1-3 に示します。この図では、

「Marketing」組織に関連付けられた設定が保護されており、この結果ユーザー jclarke のポリシーに指定されている値を無視して結合が行われ、デスクトップアプリケーションで使用できるように読み取り専用の値がエクスポートされます。

ポリシーから得た設定値は、次のルールに従って、クライアントアプリケーションのローカル構成と統合されます。

- 保護されていないポリシー設定値は、ローカルなユーザー設定がない場合にデフォルトとして使用されます。
- 保護されているポリシー設定値は、ローカルな必須設定がない場合に適用されます。

---

## ポリシーグループ

管理者は次の2通りの方法で、特定のエンティティに設定ポリシーを設定できます。

- エンティティにポリシーグループを割り当てる
- エンティティの現在のポリシーを変更する

「ポリシーグループ」は、一意の名前で識別されるポリシーコンテナです。ポリシーグループは、**Configuration Manager** 内でそのポリシーグループに対するリンクを作成することで、組織ツリーまたはドメインツリーの任意のエンティティに割り当てることができます。この割り当てにより、ポリシーの再利用度が高まります。ポリシーグループはインポート/エクスポート可能なので、メンテナンスが容易です。

管理者は、たとえばスタッフグループ「Novice」またはホスト「Domain Controller」に適した設定が入ったポリシーを作成し、それらを2つのポリシーグループとして保存し、その記述に該当する組織ツリーまたはドメインツリーの全要素にこれらのポリシーグループを割り当てることができます。



## 第 2 章

---

# 使い方

---

この章では、Java Desktop System Configuration Manager の使用方法について説明します。具体的には、Configuration Manager のグラフィカルユーザーインターフェースと機能について説明するとともに、このツールを使った作業について詳しく説明します。

---

## ログイン

---

注 - Configuration Manager を使用するには、Internet Explorer 5.0 以降または Mozilla 1.0 以降が必要です。

---

### ▼ Configuration Manager へのログイン

始める前に Configuration Manager を使用するには、まず Java™ Web Console にログインします。Java Web Console には、一貫したユーザーインターフェースを持つ管理アプリケーションにアクセスするための標準的なログインページがあります。

- 手順
1. ブラウザで次の URL を入力し、**Java Web Console** にアクセスします。  
**https://<hostname>.<domainname>:6789** (<hostname>.<domainname> はセットアップ作業で指定したサーバー名)。例:  
**https://myserver.mycompany.com:6789**  
Java Web Console の「ログイン」ページが表示され、ログインするサーバーの名前がユーザー名およびパスワードのテキストフィールドの上に示されます。
  2. **Java Web Console** の「ログイン」ページで管理者の **LDAP** ユーザー名とパスワードを入力し、続いて「ログイン」ボタンをクリックします。

認証が正常に行われると、セッションの開始ページが表示されます。ログインエラーがあった場合は、ログインページに戻り、エラーの原因が表示されます。

3. **Sun Java™ Desktop System Configuration Manager, Release 1.1** リンクをクリックします。

すると、Configuration Manager セッションが起動されます。

---

注 - 新しいウィンドウで Configuration Manager を起動するには、リンクをクリックする前に「各アプリケーションを新しいウィンドウで起動する」チェックボックスを選択します。

---

---

注 - Java Web Console の起動ページを経由せずに、ログイン後 Configuration Manager アプリケーションを直接表示するには、Java Web Console のサーバーソフトウェアがインストールされているホストの URL を入力します。ホスト名、ドメイン、ポート、Configuration Manager ファイル名を、**https://<hostname>.<domainname>:6789/apoc** という書式で指定してください。

---

## Java™ Web Console について

Java Web Console は、Sun Microsystems 製品共通の Web ベース管理ソリューションを提供することを目的としています。Java Web Console は、一貫したユーザーインターフェースを持つさまざまな管理アプリケーションの起動に集中的に利用できます。

Java Web Console は Web モデルをベースとしているため、システム管理者はブラウザを使用して管理アプリケーションにアクセスできます。

Java Web Console では以下が提供されます。

- 共通の認証と承認
- 共通のログ
- すべての管理アプリケーションに対して、同じ HTTPS ベースのポートを経由する単一のエン트리ポイント
- 共通の外観と使用感

---

## ユーザーインタフェース

ほとんどの Configuration Manager ページは、次に示す 3 つの区画から構成されます。

- 「マストヘッド」(上部)
- 「ナビゲーション」左区画
- 「コンテンツ」右区画

さらに、ダイアログまたはオンラインヘルプを呼び出すと、別のブラウザウィンドウが開きます。

---

## マストヘッド

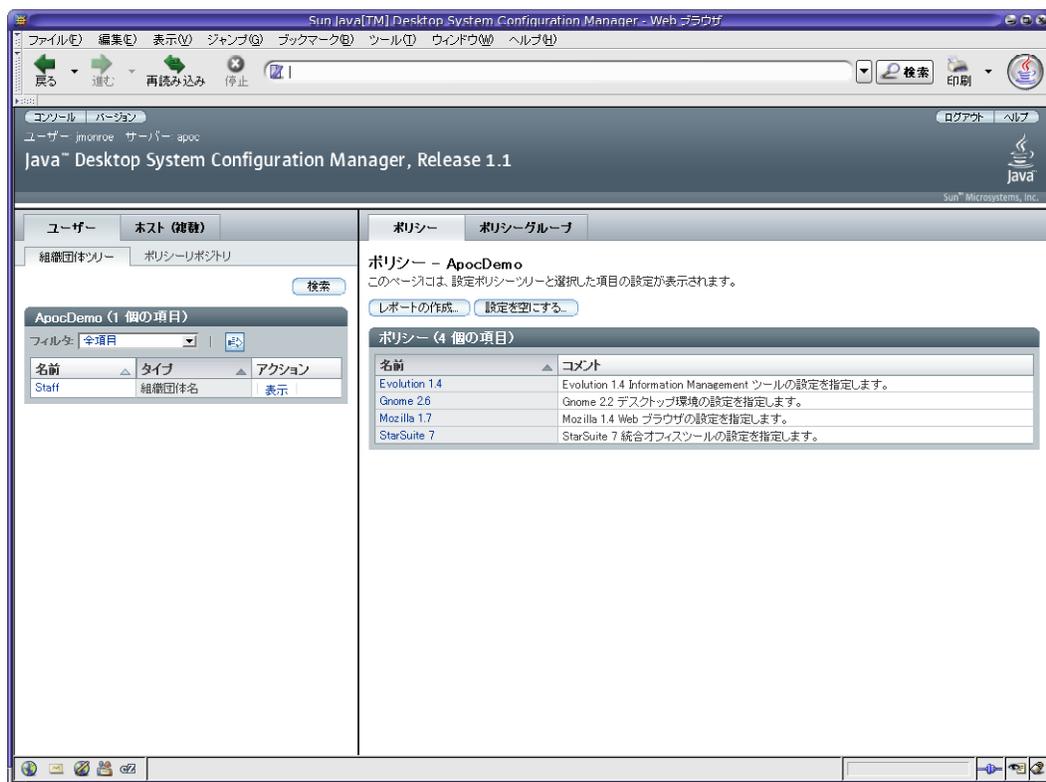


図 2-1 Configuration Manager のメインウィンドウ

マストヘッドには、一般的なリンクが多数あります。マストヘッドの上部には、4つのリンクを持つユーティリティバーがあります。以下に、左から順にこれらのリンクについて説明します。

- 「コンソール」リンクは、Java Web Console 起動ページを表示する
- 「版」リンクは、Configuration Manager のバージョン情報を表示するウィンドウを開く
- 「ログアウト」リンクは、Java Web Console からユーザーをログアウトさせ (結果的にユーザーは Configuration Manager からログアウトすることになる)、「ログイン」ページを表示する
- 「ヘルプ」リンクは、オンラインヘルプページを開く

マストヘッドの下部には、次の情報が表示されます。

- 製品名、Sun Java™ Desktop System Configuration Manager, Release 1.1
- 現在ログインしている管理者の名前
- サーバー名
- Sun Microsystems のロゴ

## ナビゲーション区画



図 2-2 ナビゲーション区画

ナビゲーション区画では、ユーザーエンティティツリーとホストエンティティツリーについて次の作業を行うことができます。

- エンティティツリーを表示する
- ポリシーリポジトリを表示する
- ポリシーリポジトリのポリシーグループを管理する

ナビゲーション区画には、「ユーザー」と「ホスト (複数)」という2つの見出しページがあります。以下、それぞれの見出しページについて詳しく説明します。

### 「ユーザー」見出しページ

「ユーザー」見出しページでは、組織ツリーのブラウズと、組織ツリーのポリシーグループの管理が行えます。さらにサブ見出しとして「組織団体ツリー」と「ポリシーリポジトリ」があります。

### 組織団体ツリーのナビゲーション

系統パスまたはナビゲーションテーブルを使用して組織ツリーを表示できます。

### 系統パス

「ユーザー」見出しページの先頭には、現在のエンティティまでのパスを表示する領域である系統パスが表示されています。系統パス内のパス要素は、対応するエンティティへのリンクになっています。ただし、現在のエンティティを示す最後のパス部分だけは例外で、通常のテキストとして表示されます。

系統パスを使用して移動するには、リンクをクリックします。系統パスのポイント先がクリックしたエンティティになり、ナビゲーションテーブルにそのエンティティのサブエンティティが含まれるように、ナビゲーション区画が更新されます。そのエンティティと関連付けられた設定ポリシーデータにより、コンテンツ区画も更新されます。

## ナビゲーションテーブル

ナビゲーションテーブルは系統パスの下に位置し、現在のエンティティのサブエンティティが一覧表示されます。「名前」列には、現在のエンティティの全サブエンティティの名前が含まれています。「タイプ」列には、エンティティのタイプが表示されます。「アクション」列には、各行の「表示」リンクが含まれています。

エンティティが組織または下位の役割を伴う役割の場合、表示された名前をクリックすると、次の動作が実行されます。

- 選択したサブエンティティが、現在のエンティティになります。
- 系統パスのポイント先が新しい現在のエンティティになり、ナビゲーションテーブルにそのエンティティのサブエンティティが含まれるように、ナビゲーション区画が更新されます。
- そのエンティティと関連付けられた設定ポリシーにより、コンテンツ区画が更新されます。

エンティティの種類は、「組織」、「ユーザー」、または「役割」のどれかです。

ナビゲーション区画で現在のエンティティを変更することなくエンティティの詳細一覧を表示するには、「表示」リンクをクリックします。選択した行の背景色が青に変わり、選択したエンティティに対応するデータが含まれるようにコンテンツ区画が更新されます。

背景が青の行は、現在コンテンツ区画でデータが表示されているエンティティを表します。

ナビゲーションテーブルの最上部には、「フィルタ」ドロップダウンメニューと「拡張フィルタ」アイコンがあります。詳細は、25 ページの「拡張フィルタ」を参照してください。テーブル内に 10 個を超えるエントリが存在する場合は、「全データをページング」アイコン  が表示されます。このアイコンを使用すると、テーブルエントリの表示を変更できます。

「フィルタ」ドロップダウンメニューは、ナビゲーションテーブルに表示するエンティティの種類を選択するために使用できます。選択肢は次のとおりです。

- 「全項目」は、ナビゲーションテーブルにある全タイプのエンティティを表示します。
- 「組織団体名」は、ナビゲーションテーブルにあるタイプ「組織団体名」のエンティティのみを表示します。
- 「ユーザー」は、ナビゲーションテーブルにあるタイプ「ユーザー」のエンティティのみを表示します。

- 「役割」は、ナビゲーションテーブルにあるタイプ「役割」のエンティティのみを表示します。

## 拡張フィルタ



図 2-3 「拡張フィルタ」ダイアログ

拡張フィルタ機能は、表示するエンティティの種類を定義するために使用します。

### ▼ 「拡張フィルタ」ダイアログの使用手順

1. ナビゲーションテーブルの上部にある「拡張フィルタ」アイコン  をクリックして、ダイアログを表示します。
2. 「タイプ」セクションで、フィルタリングしたいエンティティの種類を選択します。具体的なフィルタを指定する場合は、名前を「名前」テキストフィールドに入力してください。

---

注 - 「名前」テキストフィールドでは、アスタリスク "\*" をワイルドカードとして使用できます。

---

3. ダイアログの下部にある「フィルタ」ボタンをクリックし、フィルタリングを実行します。

## 検索

この機能は、組織ツリー内を検索し、特定のエンティティタイプとエンティティ名を探すために使用できます。



図 2-4 「検索」ウィンドウ

## ▼ エンティティの検索

- 手順 1. ナビゲーション区画で「検索」ボタンをクリックします。
- 「検索」ウィンドウが表示されます。「検索」ウィンドウにはマストヘッドが含まれ、左側にはパラメータ領域があり、右側には結果領域があります。パラメータ領域の先頭には、現在のエンティティの系統パスが表示されます。

注-バックグラウンドで「検索」ウィンドウを開いた状態で、メインウィンドウのナビゲーション区画の「検索」ボタンをクリックすると、「検索」ウィンドウが最上位のウィンドウになります。「検索」ウィンドウのパラメータ領域の系統パスにより表示される、「検索」ウィンドウの現在のエンティティが更新されます。その他すべてのパラメータと、結果領域の内容は変更されません。

2. 系統パスの下のリストボックスから、該当するエンティティタイプを選択します。
- 特定のエンティティタイプを検索するには、系統パスの下にあるドロップダウンリストからそのタイプを選択します。選択肢は次のとおりです。
- 全体を検索

- 組織団体の検索
  - ユーザーを検索
  - 役割の検索
  - ドメインを検索
  - ホストの検索
3. カテゴリの検索結果を絞り込むには、各カテゴリタイプの検索フィールドに文字列を入力します。  
フィルタ文字列のデフォルト値は、「すべて」を表す「\*」です。アスタリスクは、ワイルドカードとして検索フィールドに入力できます。

---

注 - 検索では大文字小文字が区別されません。

---

4. 「開始場所」セクションからオプションを選択し、検索の開始位置を決定します。  
どのオプションを選択した場合でも、組織ツリーの詳細な検索が開始されます。異なるのは、検索の開始場所です。ルートからの検索は組織ツリーの先頭から開始され、他の位置からの検索はツリーのその位置から開始されます。  
系統パスで任意のパス要素をクリックすると、検索の現在位置が選択したエンティティに変更されます。
5. 「1 ページに表示される検索結果」リストボックスで、表示する検索結果の数を選択します。
6. 「検索」ボタンをクリックします。  
検索が完了すると、結果領域に検索結果を示した表が表示されます。
7. 別の検索を開始する場合や、現在の検索パラメータをクリアする場合は、パラメータ領域の「リセット」ボタンをクリックします。

## 検索結果の扱い方

**検索結果** 終了

このページには、検索結果のリストが表示されます。「パス」列には、開始場所からの相対パスのリストが表示されます。

検出された項目 (8 個の項目)

名前	タイプ	パス
Clarke, John (jclarke)	ユーザー	ApocDemo > Staff > Marketing
Customer Care Centre (CCC)	組織団体名	ApocDemo > Staff
Duncan, Thomas (tduncan)	ユーザー	ApocDemo > Staff > Customer Care Centre (CCC)
Engineer	役割	ApocDemo > Staff
Marketing	組織団体名	ApocDemo > Staff
Monroe, Jason (jmonroe)	ユーザー	ApocDemo > Staff
Site Manager	役割	ApocDemo > Staff
Smith, Mark (msmith)	ユーザー	ApocDemo > Staff > Marketing

終了

図 2-5 検索結果表

検索が完了すると、「検索」ウィンドウの結果領域に結果テーブルが表示されます。テーブルには、次の 3 つの列があります。

- 「名前」：エンティティの名前が表示される
- 「タイプ」：エンティティの種類が表示される
- 「パス」：エンティティのパスが表示される。パスの起点は、検索の開始地点です。

タイプが「ユーザー」であるエンティティを検索した場合、「UserID」という 4 番目の列が結果テーブルに表示されます。

---

注 - 該当する列見出しの横の矢印をクリックすると、結果を並べ替えることができます。たとえば、タイプごとに並べ替えるには、「タイプ」列の隣にある矢印をクリックします。

---

結果を表示するには、「名前」列で対応する名前をクリックします。すると、Configuration Manager のメインウィンドウがフォアグラウンドに表示されます。コンテンツ区画には、そのエンティティに関連付けられた構成ポリシーが表示されます。このエンティティは、ナビゲーション区画でも青色で強調表示されます。

## 「ホスト (複数)」見出しページ



図 2-6 「ホスト (複数)」 見出しページ

「ホスト (複数)」 見出しページに表示されたエンティティにリンクされている構成設定は、ホストベースの設定に使用されます。

クライアント側では、ユーザーベースの構成設定は、ユーザー名に基づいて組織ツリーから取得されます。ホストベースの構成設定は、ユーザーが現在作業を行なっているホストの IP またはホスト名に基づいて、ドメインツリーから取得されます。

ホストベースの構成設定を提供することによって、ネットワーク環境に依存する設定値を容易に設定できます。よくあるケースとして、ユーザーベースの構成が 1 つ存在するが、現在作業を行なっているホストによってはオプションのプロキシ構成も使用できるというローミングユーザーが挙げられます。

「ホスト (複数)」 見出しページには、「ドメインツリー」と「ポリシーリポジトリ」という 2 つのサブ見出しがあります。

## 「ドメインツリー」 見出しページ



図 2-7 「ドメインツリー」 見出しページ

ドメインツリーには、ユーザーが現在作業を行なっているホストの構成設定が表示されます。このツリーは、「ホスト (複数)」 見出しをクリックするとデフォルトで開かれます。

ドメインツリーでのナビゲーションは、組織ツリー内でのナビゲーションと同じように行えます。詳細は、23 ページの「[組織団体ツリーのナビゲーション](#)」を参照してください。

ドメインツリーナビゲーションテーブルのアクションバーには、次の項目を持つ「フィルタ」ドロップダウンメニューが表示されます。

- 「全項目」:あらゆるタイプのエンティティを表示する
- 「ドメイン」:タイプが「ドメイン」であるエンティティを表示する
- 「ホスト (複数)」:タイプが「ホスト」であるエンティティを表示する

アクションバーには、30 ページの「「ホスト (複数)」 ページの「拡張フィルタ」」で説明している「拡張フィルタ」アイコンもあります。

## 「ホスト (複数)」 ページの「拡張フィルタ」



図 2-8 「拡張フィルタ」 ウィンドウ

ドメインツリーナビゲーションテーブルのアクションバーで「拡張フィルタ」アイコンをクリックすると、「拡張フィルタ」ウィンドウが開きます。このフィルタは、組織ツリーの拡張フィルタと同様に機能します。25 ページの「拡張フィルタ」を参照してください。ドメインツリーの拡張フィルタでは、フィルタリングを行うエンティティタイプとして「ドメイン」と「ホスト」を選択できます。

## ドメインツリーの検索



図 2-9 「ドメインツリー」 検索ウィンドウ

「ドメインツリー」見出しの「検索」ボタンをクリックすると、「ドメインを検索」ウィンドウが表示されます。「ドメインを検索」は、組織ツリーにおける検索と同様にドメイン内検索を行えます。詳細は、25 ページの「検索」を参照してください。

## ポリシーリポジトリ



図 2-10 「ポリシーリポジトリ」 見出し

「ポリシーリポジトリ」見出しは、「ユーザー」見出しと「ホスト (複数)」見出しの中に存在します。

ポリシーリポジトリは、ユーザーポリシーグループまたはホストポリシーグループのコンテナです。ポリシーグループは、順序付けされたリストに編成されています。順序は、優先度により定義されます。

## ポリシーグループテーブル

ポリシーグループテーブルはページの最上部に存在し、ポリシーグループを一覧表示します。テーブルには、選択列、「名前」および「優先度」の3つの列が含まれています。図 2-10 を参照してください。

選択列は、「ポリシーグループのアクション」ドロップダウンメニュー内のアクションを示す行にマークをつけるために使用します。

## ポリシーグループのナビゲーション

特定のポリシーグループに移動するには、「名前」列でその名前をクリックします。選択した行の背景色が青に変わり、選択したポリシーグループに対応するデータが含まれるようにコンテンツ区画が更新されます。

「優先度」列には、ポリシーグループの優先順位が含まれています。1つのエンティティに複数のポリシーグループが関連付けられている場合、ポリシーグループの結合順序は、この優先度によって定義されます。

背景が青の行は、現在コンテンツ区画でデータが表示されているポリシーグループを表します。

## ポリシーグループのアクションバー

「ポリシーグループのアクション」ドロップダウンメニューには、次のアクションが入っています。

表 2-1 ポリシーグループのアクション

名前	アクション
新規	ポリシーグループの(一意の)名前を入力するダイアログウィンドウが開く。「OK」をクリックすると、ポリシーグループが追加される。変更を反映するため、ナビゲーション区画が更新される
削除	ポリシーグループ(複数可)の削除を確認する警告メッセージ表示される、ポップアップウィンドウが開く。「OK」をクリックすると、そのポリシーグループが削除される。変更を反映するため、ナビゲーション区画が更新される

表 2-1 ポリシーグループのアクション (続き)

名前	アクション
名前の変更	ポリシーグループの新しい (一意の) 名前を入力するダイアログウィンドウが開く。この操作でポリシーグループの名前が変更され、この変更を反映するようにナビゲーション区画が更新される
優先度の編集	優先順位を変更するためのリストボックスが含まれる、ダイアログウィンドウが表示される
エクスポート	ダイアログウィンドウが開く。管理者は、選択されているポリシーグループのエクスポート先となるパスを入力する
インポート	ダイアログウィンドウが開く。管理者は、インポートされるポリシーグループを選択する。「OK」をクリックするとポリシーグループが追加され、変更を反映するためナビゲーション区画が更新される

## ポリシーグループの優先度

ポリシーグループの優先順位の概念により、レイヤーの結合順序を定義することができます。あるエンティティに複数のポリシーグループが割り当てられている場合、結合時にポリシーグループの優先度が使用されます。このような場合、エンティティの階層を指定するだけではポリシーグループの結合順序を決定することはできません。この問題は、ポリシーグループに優先度を割り当てることで解決できます。

「ポリシーグループの優先度」ダイアログを開くには、「ポリシーグループのアクション」ドロップダウンメニューから「優先度の編集」を選択します。



図 2-11 「ポリシーグループの優先度」ウィンドウ

## ▼ ポリシーグループの優先度を変更する方法

- 手順
1. リストからポリシーグループを選択します。
  2. 「上へ」ボタンまたは「下へ」ボタンをクリックし、優先度の引き上げまたは引き下げを行います。

## コンテンツ区画

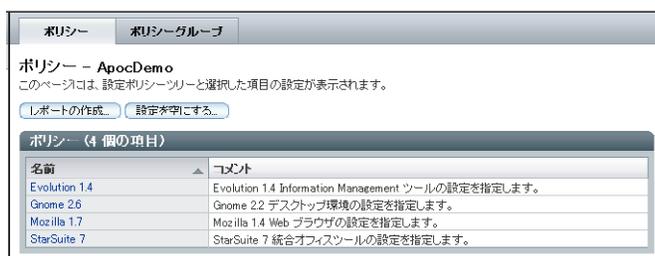


図 2-12 コンテンツ区画

コンテンツ区画には、ナビゲーション区画で選択したエンティティまたはポリシーグループに関連付けられたデータが表示されます。データは見出しページごとにまとめられており、コンテンツ区画の最上部で対応する見出しをクリックすることによってアクセスできます。ナビゲーション区画で行う選択により、コンテンツ区画で表示されるタブの数とタイプが決定します。

「ポリシー」見出しページは、デフォルトでアクティブになる見出しページです。選択の中に現在アクティブな見出しページが含まれる限り、ナビゲーション区画で選択を変更しても、現在アクティブな見出しページはアクティブなままになります。選択された中に現在アクティブな見出しページが含まれない場合は、「ポリシー」見出しページがアクティブな見出しページになります。見出しページが再びアクティブになると、見出しページの内部状態 (系統パス、並べ替え順序) は元に戻ります。

## 「ポリシー」見出しページ

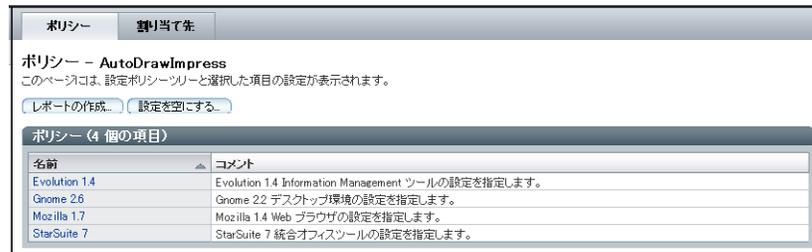


図 2-13 「ポリシー」見出しページ

サブグループまたは構成設定 (あるいはこの両方) を表示する構成ポリシーツリーに移動するには、「ポリシー」見出しページを使用します。

各「ポリシー」ページには、「レポートの作成」ボタンが存在します。このボタンを使用すると、レポート機能にアクセスできます。詳細は、[43 ページの「レポート」](#)を参照してください。

「ポリシー」ページに「ポリシー」テーブルが含まれる場合は、「設定を空にする」ボタンが表示されます。「設定を空にする」ボタンは、選択されているエンティティの現在のポリシーに定義されているすべての構成設定を削除します。これにより、関連付けられているサブポリシーの設定も削除されます。「設定を空にする」ボタンをクリックすると、このアクションによって何が起きるかを知らせる警告ダイアログが表示されます。

設定ポリシーツリーの各ルートエントリは、Mozilla などのアプリケーションを表します。アプリケーションの下の子は、そのアプリケーションに割り当てられた構成設定で編成されています。

## 系統パス

系統パスは、タブの下にあるページの最上部に表示されます。系統パスは、設定ポリシーツリーの現在の位置を示し、ナビゲーション区画の系統パスと同様に機能します。詳細は、[23 ページの「系統パス」](#)を参照してください。

## 「ポリシー」テーブル

ポリシー		ポリシーグループ
ポリシー > Gnome 2.6		
<b>Gnome 2.6 - ApocDemo</b>		
Gnome 2.2 デスクトップ環境の設定を指定します。		
<a href="#">レポートの作成</a> <a href="#">設定を空にする</a>		
ポリシー (9 個の項目)		
名前	コメント	
CD デバイスのオプション	データ、オーディオ、DVD およびブランクの各ディスクの取り扱いの設定を指定します	
インターネットのオプション	インターネットをブラウズするためのプロキシ設定を指定します。	
キーボード	キーボードアクセシビリティショートカットキーの設定を指定します。	
ディスプレイ	Gnome デスクトップの外観と動作を指定します。ウィンドウのフォーカス設定、Gnome のテーマ、およびフォルダのオプションを指定できます。	
フォルダのオプション	ファイルマネージャの表示、動作、およびプレビューの設定を指定します。	
マウス	マウスの設定を指定します。マウスを右利きまたは左利き用に設定できるだけでなく、マウスの動きの速度と感度も指定できます	
リモートアクセス	リモートのユーザーがデスクトップにアクセスできるようにするための設定を指定します。	
拡張	Gnome の拡張機能を指定します。たとえば、Gnome パネル、セッションのオプション、およびデフォルトのブラウザなどです。	
封鎖	デスクトップ機能の封鎖の設定を指定します。	

図 2-14 「ポリシー」 テーブル

「サブグループ」 テーブルは、系統パスの下にあります。このテーブルには、設定ポリシーツリーの現在位置のサブグループが一覧表示され、「名前」および「コメント」の 2 つの列が含まれています。

「名前」列には、設定ポリシーツリーの現在位置の全サブツリーの名前が含まれています。名前はリンクとして表示されます。

設定ポリシーツリーを移動するには、名前のリンクをクリックします。この操作でコンテンツ区画が更新され、構成ポリシーツリー内の新しい場所が系統パスとして表示されるとともに、この区画に「ポリシー」 テーブルが表示されます。

「コメント」列には、サブグループについての短い説明が入っています。

## ポリシー

ポリシーの構成設定は、コンテンツ区画の「ポリシー」 ページに表示されます。



図 2-15 「ポリシー」 ページ

データは、テーブル形式で表示されます。テーブルには、選択用のアイコンが含まれる選択列、「ステータス」列、「名前」列および「値」列の 4 つの列があります。テーブル上のアクションバーには、ドロップダウンアクションメニューが表示されます。

## ▼ 特定の要素に対してアクションを実行する方法

- 手順
1. 希望する要素の選択列で、チェックボックスを選択します。
  2. 「ポリシーのアクション」ドロップダウンメニューからアクションを選択します。全アクションの説明の表を、次に示します。

アクション	操作
保護	選択した要素を保護対象に設定する。
保護解除	選択した要素の保護を削除する
クリア	現在のエンティティの要素内に格納されているデータを削除する。
デフォルトの適用	アプリケーションのデフォルトを使用する。

要素名の左側には2つのアイコンがあり、その要素の状態を表示します。次の表は、アイコンとその機能の概要を説明したものです。

アイコン	意味	操作
	このアイコンは、要素の値が組織団体ツリーのこのレベルで設定されたことを表す	-
	このアイコンはリンクでもあり、要素の値が組織 (またはドメイン) ツリーのより上位のレベルで設定されたことを表す。表示される値は、組織内の層 (エンティティレベル) の結合の結果である	アイコンをクリックすると、その値が設定された場所に移動する
	このアイコンは、要素の保護が組織 (またはドメイン) ツリーのこのレベルで設定されたことを表す。保護は、組織団体ツリーと設定ポリシーツリーの両方に渡って継承される。	-
	このアイコンはリンクでもあり、要素の保護が組織 (またはドメイン) ツリーのより上位のレベルで設定されたことを表す。この要素または項目の保護は、組織内でのレイヤー (つまりエンティティレベル) の結合の結果である	このアイコンをクリックすると、保護が設定されたレベルに移動する

データ値は、「値」列の値を変更することで変更できます。値の変更だけでなく、状態の変更も保存する必要があります。保存するには、「保存ボタン」をクリックします。

## セット

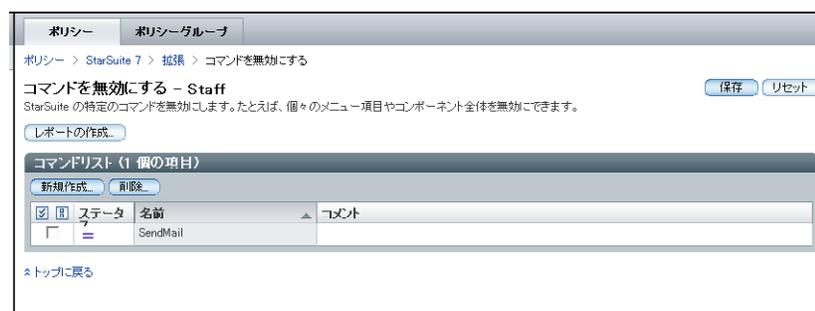


図 2-16 新しい特性の追加

一般に、「ポリシー」見出しページのコンテンツと構造は変化しません。このため、1つのサブグループのプロパティとセクションの数は決まっており、管理者が変更することはできません。このことは、ほとんどの管理作業にとって差し支えありませんが、アプリケーションの中には項目のリストを管理するものがあり、この場合管理者は項目の追加または削除を行えます。このため、Configuration Managerには類似した機能を提供する「セット」が用意されています。「セット」を使用することで管理者は、実行時にプロパティの追加または削除が行えます。

## ▼ セットに要素を追加する方法

- 手順
1. 「新規作成」ボタンをクリックします。
  2. 表示されるダイアログに、新しい要素の名前を入力します。  
その要素が追加され、メインウィンドウが更新されます。
  3. メインウィンドウでは、その新しい要素を編集できます。
  4. 加えた変更を永続的なものにするには、「保存」ボタンをクリックして変更を確定する必要があります。

### 参考 要素の削除

セットから要素を削除するには、削除する要素を選択し、「削除」ボタンをクリックします。

---

注-1つのセットに1つ以上のセットを含めることもできます。セットを編集するには、リストのセット名をクリックします。

---

## 「ポリシーグループ」見出しページ

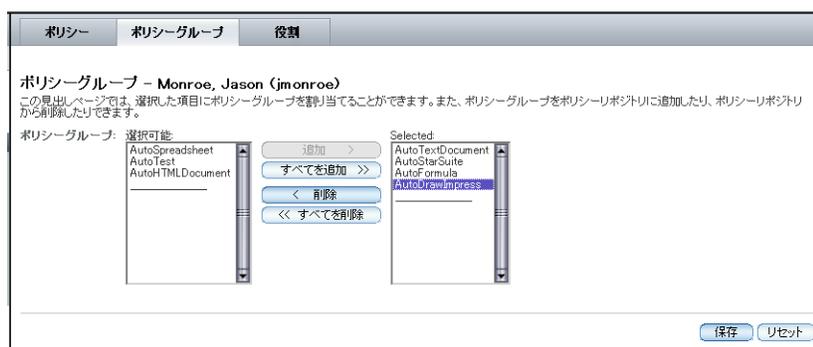


図 2-17 「ポリシーグループ」見出しページ

ナビゲーション区画でエンティティがすでに選択されている場合、コンテンツ区画には「ポリシーグループ」見出しページが表示されます。このページで管理者は、選択されているエンティティにポリシーグループを追加することも、そのエンティティからポリシーグループを削除することもできます。

左側のリストに、現在エンティティに割り当てられていない、利用可能なポリシーグループが表示されます。右側のリストには、現在エンティティに割り当てられているポリシーグループが表示されます。1 つ以上の項目を選択することによって、管理者はエンティティに対してポリシーグループの追加または削除ができます。

## ポリシーグループの追加と削除

### ▼ 左側の区画の「選択可能」リストに一覧表示されているポリシーグループに追加する方法

- 手順
1. エンティティに追加したいポリシーグループ (1 つ以上) を「選択可能」リストから選択します。
  2. 「追加ボタン」をクリックして、選択したポリシーグループを、右側の「選択」リストに追加します。
  3. 「保存」をクリックして、新しい割り当てを保存します。

### ▼ エンティティからポリシーグループを削除する方法

- 手順
1. エンティティから削除したいポリシーグループ (1 つ以上) を「選択」リストから選択します。
  2. 「削除」ボタンをクリックし、選択したポリシーグループを削除します。

3. 「保存」をクリックし、削除を永続的なものにします。

---

注 - 「すべてを追加」ボタンをクリックし、選択されているエンティティに対してすべてのポリシーグループを追加することもできます。同様に、「すべてを削除」ボタンを使用すれば、選択されているエンティティからすべてのポリシーグループを削除できます。

---

## 「割り当て先」見出しページ



図 2-18 「割り当て先」見出しページ

ナビゲーション区画の「ポリシーリポジトリ」見出しページでポリシーグループが選択されている場合、コンテンツ区画には「割り当て先」見出しページが表示されます。「追加」ページには、選択したポリシーグループの割り当て先であるすべてのエンティティが表示されています。

「割り当て先」見出しページでは、次のアクションを実行できます。

- 「削除」ボタンをクリックすると、選択されているエンティティと、ナビゲーション区画で選択されているポリシーグループ間の関連付けが削除されます。
- 選択列は、削除する行を選択するために使用します。
- 「名前」列のエンティティをクリックするとナビゲーション区画が更新され、クリックしたエンティティが、ナビゲーション区画で背景が青のエンティティになります。
- 「タイプ」列には、エンティティのタイプが表示されます。エンティティのタイプは、「組織団体名」、「ユーザー」または「役割」のいずれかです。
- 「パス」列には、組織ツリーまたはドメインツリー内のエンティティへのパスが表示されます。

## 「役割」見出しページ



図 2-19 「役割」 見出しページ

ナビゲーション区画でエンティティタイプ「ユーザー」が選択されている場合、コンテンツ区画には「役割」見出しページが表示されます。「役割」見出しページには、選択されているユーザーが属している役割がすべて一覧表示されます。

このページには、「名前」および「パス」の2つの列があります。「名前」列には役割の名前が表示され、「パス」列には役割の絶対パスが表示されます。

## 「ユーザー」見出しページ



図 2-20 「ユーザー」見出しページ

ナビゲーション区画で役割が選択されていると、コンテンツ区画に「ユーザー」見出しページが表示されます。「ユーザー」ページには、選択されている役割のメンバーである全ユーザーが一覧表示されます。

「ユーザー」テーブルには、「名前」と「パス」という2つの列が存在します。「名前」列にはユーザーの名前が表示され、「パス」列にはそのユーザーの絶対パスが表示されます。絶対パスが表示されるのは、現在のエンティティの下にはないメンバーが役割に割り当てられている可能性があるからです。

# レポート

レポートは、データを含むすべての構成設定の、読み取り専用ビューです。「レポートの作成」ボタンをクリックするとレポートが生成されます。「レポートの設定」ダイアログが表示されます。



図 2-21 「レポートの設定」ダイアログ

「レポートの設定」ダイアログでは、次の点をカスタマイズできます。

- どのツリーを使用するか(「レポートに使用」セクションで組織ツリーまたはドメインツリー、あるいはこの両方を選択)
- 生成されたレポートにどの列を表示するか(「ステータスパス」と「説明」を表示できる)

## ▼ レポートの作成

- 手順
1. コンテンツ区画の該当するウィンドウで、「レポートの作成」ボタンをクリックします。  
「レポートの設定」ダイアログが表示されます。
  2. 次のオプションの設定をカスタマイズします。
    - 「組織団体ツリー」オプションには、ナビゲーション領域で現在選択されている組織メンバー(組織、ユーザー、または役割)の完全修飾パスが入っています。
    - 「ドメインツリー」オプションには、ナビゲーション領域で現在選択されているドメインメンバー(ドメインまたはホスト)の完全修飾パスが入っています。

- レポート内で使用する構成設定を指定するには、「レポートに使用」セクション内のラジオボタンを使用してください。組織ツリーのメンバーの構成設定、ドメインツリーのメンバーの構成設定、または2つの設定の組み合わせを使用できます。後者は、主にマシン "b" 上のユーザー "a" の構成を表示する目的で使用されます。ラジオボタングループのデフォルトの選択状態は、ナビゲーション区画で選択した見出しによって異なります。「ユーザー」見出しページが開いていると、デフォルトで「組織団体ツリーの設定」が選択されます。「ホスト (複数)」見出しページが開いていると、「ドメインツリーの設定」が選択された状態で表示されます。

---

注 - コンテンツ区画の「ポリシー」見出しページにポリシーグループの構成設定が表示されているときに「レポートの作成」ボタンをクリックすると、前述のユーザーインタフェース要素のどちらも表示されません。これは、ほかのメンバーと組み合わせてポリシーグループのレポートを生成しても意味がないためです。ポリシーグループのレポートには、選択されているポリシーグループに基づいた構成設定しか含まれません。

---

- 「ステータスパス」チェックボックスと「説明」チェックボックスは、レポートウィンドウの表示（「ステータスパス」列と「説明」列）を切り替えるために使用されます。
3. 「レポートの作成」ボタンをクリックして「レポートの設定」ダイアログを閉じます。  
カスタマイズが終了したあとでレポートをクリックすると、選択されているデータの読み取りだけが行える画面が表示されます。

## 「レポート」ウィンドウ

「レポート」ウィンドウは、保存と印刷が簡単にできるように最適化されたブラウザウィンドウです。したがって、レポートページではイメージは使用されません。

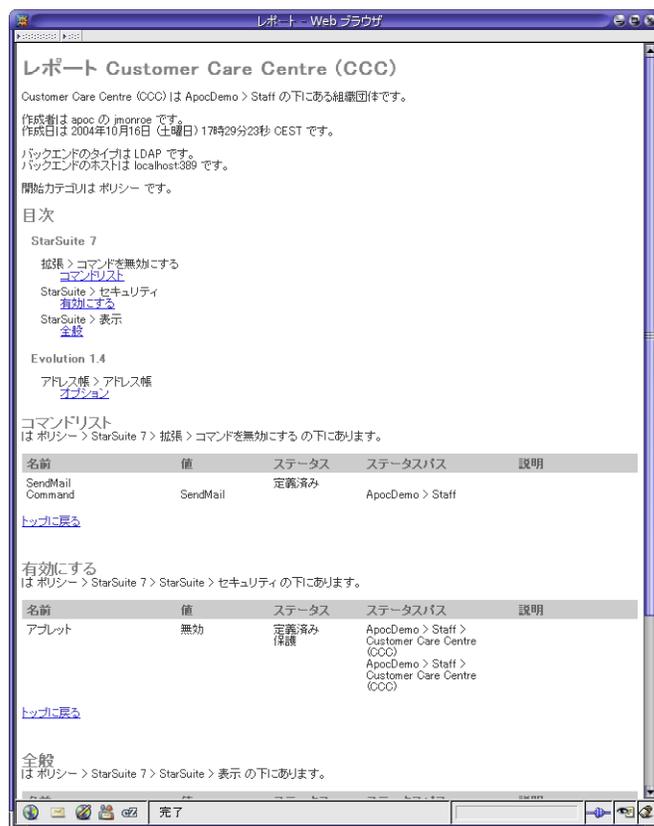


図 2-22 「レポート」ウィンドウ

次にレポートの代表的な要素を示します。

- メインヘッダー
- 環境情報
- コンテンツのテーブル
- 構成設定が指定されたテーブル

メインヘッダーには、文字列「Report -」に続けてそのレポートの生成に使用されている組織メンバーとドメインメンバーの名前が表示されます。

環境情報としては、使用されている組織 / ドメインメンバー、作成者、作成日、バックエンドの種類、ホストと場所に加えて、先頭のサブグループが表示されます。

目次には、このレポートの構成設定が含まれているテーブルを示すリンクがコンパクトに並べられます。

構成設定が含まれるテーブルは、サブグループ単位にまとめられます。表示されるのは、該当する組織またはドメインのメンバーの構成設定が1つ以上含まれるサブグループだけです。各テーブルには、サブグループの名前と場所が入ったタイトルが表示されます。この場合、番号によってサブグループの場所が示されます。レベルごとに追加番号が表示されます。各番号の値は、そのレベルに指定されているサブグループの数を表します。

表そのものは次の列で構成されます。

- 「名前」：構成設定の名前が示される
- 「値」：構成設定の値が示される
- 「ステータス」には、構成設定のステータスが示される。可能な値: 「定義済み」、「読み取り専用」、またはこの両方。「定義済み」は、この構成設定に値があることを示す。「読み取り専用」は、下位の層で変更できない構成設定を示す。構成設定に値がある場合、この値は必ず「定義済み」であるが、値なしで構成設定を読み取り専用にすることもできる
- 「ステータスパス」(オプション)には、ステータスが設定されているパスが示される
- 「説明」(オプション)には、構成設定についての簡単な説明が示される

読みやすくするために、奇数行の背景は明るい色になります。各テーブルの後には、「トップに戻る」リンクが表示されます。このリンクをクリックすると、目次が再表示されます。

---

## ログアウト

Configuration Manager セッションを完了するには、マストヘッドの「ログアウト」リンクをクリックします。

---

## ヘルプ

ヘルプ情報は、次に示す3つの方法で利用できます。

- メインのヘルプページにアクセスするには、マストヘッドの右上にある「ヘルプ」リンクをクリックします。ブラウザウィンドウが新たに開きます。



コンテンツペインをナビゲートしているときは、ヘルプ機能はコンテキストに対応します。「ヘルプ」をクリックすると、現在のタブページに対応するセクションのヘルプページが表示されます。

- 現在作業を行なっている特定の項目に関する簡単な説明を確認したい場合は、インラインヘルプを使用できます。説明は各ページの一番上に表示されます。  
インラインヘルプは必要に応じて、構成設定の説明や使用できる値のタイプも提供します。
- ツールのヒントは、すべてのグラフィックイメージとリンクの下に表示されます。ツールのヒントを見るには、マウスをグラフィックイメージ上またはリンク上に置きます。



## 第 3 章

---

# コマンド行インタフェースの使用

---

この章では、Java Desktop System Configuration Manager のコマンド行インタフェース (CLI) について説明します。構成ポリシーグループの作成、操作、エクスポート、インポートの各作業を行う場合には、Configuration Manager グラフィカルユーザーインタフェースに代わる手段として Java Desktop System Configuration Manager CLI を利用できます。

---

## Configuration Manager CLI の概要

Configuration Manager CLI は、ポリシーグループの作成、操作、エクスポート、インポート、削除に使用できます。これらのポリシーグループは、ポリシーグループリポジトリの一部として作成することも、あるいはエンティティポリシーグループとして作成することもできます。Configuration Manager GUI と同様に、Configuration Manager CLI でもポリシーグループリポジトリの一部であるポリシーグループとエンティティポリシーグループをエンティティに割り当てたり割り当てを解除したりできます。CLI では、XML 形式のリポジトリとエンティティポリシーグループを zip ファイルとしてエクスポートしたり、zip ファイルからインポートしたりできます。これらのファイル内のポリシー設定は、ポリシーグループをインポートする前に作成、編集、削除できます。

---

注 - CLI には、次に示す GUI 機能に相当するものではありません。

- エンティティ階層のナビゲーション
  - 結合されたエンティティポリシー設定の表示
  - レポートの生成
-

---

# CLI による作業

## CLI コマンドの呼び出し

CLIに相当するコマンドは、一度に1つのコマンドを実行する単一行コマンドモードで動作する `pgtool` です。`pgtool` には、60 ページの「コマンドの要約」で説明している多数のサブコマンド、オプション、オペランドがあります。オプションは、フルキーワードまたは短いキーワード (ショートカット) を使用して指定できます。以下のコマンド説明では、フルキーワードを使用しています。対応するショートカットは、表 3-2 を参照してください。

## CLI で必要となるブートストラップ情報

エンティティとポリシーグループを保存するデータストアを見つけ、照会を行うには、ブートストラップ情報が必要です。必要となるブートストラップ情報は、サーバー、ポート番号、ベース識別名 (DN)、およびタイプです。この情報はコマンド行で指定することも、あるいはブートストラップファイルからアクセスすることもできます。

## ブートストラップ情報へのアクセス

ブートストラップファイルの場所は、コマンド行で指定できます。コマンド行で指定しない場合は、CLI と共にインストールされているブートストラップファイルが使用されます。このファイルは、キーネームによるインストールしか行えません。このファイルの編集は、適切なブートストラップ値を提供する管理者だけに任せるべきです。

CLI では、コマンド行にブートストラップ情報を指定することもできます。次に、ブートストラップ詳細を指定するオプションを示します。

- `--hostname=<hostname>` (ストレージバックエンドのホストを担当するサーバーの名前)
- `--base=<base name>` (ストレージバックエンドのベースエントリ)
- `--port=<port number>` (ストレージバックエンドによって使用されるポート番号)
- `--type=<type of back end>` (LDAP など)

## ユーザー名とパスワードによる認証

コマンドを実行するごとにユーザー名とパスワードが必要になります。

- CLI には、管理者のホームディレクトリの資格情報ファイルにユーザー名とパスワードのペアを保存できるログインコマンドがあります。このファイル `.apocpass` は、アクセスが制限されています。login コマンドが実行されると、CLI は `apocpass` ファイルがホームディレクトリに存在するかどうかをチェックします。このファイルは存在するが、このファイルに正しいアクセス権 (600) が設定されていない場合は、コマンドはエラーを表示して終了します。ユーザー名を指定した場合は、パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。ユーザー名を指定しなかった場合は、ユーザー名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。このユーザー名とパスワードの認証は、匿名アクセスを使用して行われます。匿名アクセスがサポートされていない場合は、承認済みの DN とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。認証が正常に完了すると、`.apocpass` ファイルにエントリが追加されます。このエントリの鍵は、サーバー / ポート / ベース DN 情報とユーザー名から作成されます。

たとえば、ユーザー “jmonroe” は、ポート 389 上のベースエントリ `o=apoc` を持つサーバー `cdelab1.ireland.sun.com` のパスワードを、鍵 `cdelab1.ireland.sun.com:389;o=apoc:jmonroe` を使用して保存できます。保存される値は、ユーザー DN とパスワードです。この方法を採用することで、このバックエンドを利用する多数のユーザーのユーザー名とパスワードのペアを保存できます。同様に、ほかのバックエンドについてもユーザー名とパスワードのペアを保存できます。ログインコマンドが正常に完了すると、ユーザー名またはパスワードを指定することなくほかの CLI コマンドを実行できます。
- ほかのコマンドについては、CLI はまずそのユーザー用の `.apocpass` ファイルが存在するかどうかをチェックします。このファイルが存在しないと、ユーザー名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。このユーザー名とパスワードの認証が正常に完了すると、コマンドが実行されます。資格情報ファイルが存在し、かつコマンド行にユーザー名が指定された場合、CLI はこのホスト、ポート、ベース DN、およびユーザー名のエントリを検索します。エントリが存在すると、保存されているユーザー DN とパスワードが使用されてコマンドが実行されます。エントリが存在しないと、パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。コマンド行でユーザー名が指定されないと、`.apocpass` ファイルが検索され、ホスト / ポートとベース DN のペアを使用した鍵の確認が行われます。このペアが一意のエントリとして存在する場合、保存されているユーザー DN とパスワードが使用されてコマンドが実行されます。エントリが一意でない場合、ユーザー名の入力を求めるメッセージが表示されます。これがエントリと一致すると、保存されているユーザー DN とパスワードが使用されてコマンドが実行されます。これが一致しないと、パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。パスワードの入力を求めるメッセージがユーザーに表示される場合は、`.apocpass` ファイル内の、このホスト / ポートとベース DN のペアのエントリが使用されてユーザー名とパスワードの認証が行われます。そのようなエントリが存在しない場合には、匿名アクセスが使用されて認証が行われます。

## コマンドの実行

コマンドを実行するたびに `policymgr` API に対する結合と初期化が行われ、コマンド実行が完了したところで終了します。errir を生成してコマンドが終了しても、構成ポリシーに変更は加えられていません。

## エンティティの表現

エンティティは、uid=jmonroe,ou=People,o=apoc のように LDAP DN を使用して表現されます。

## CLI コマンド

この節では、Configuration Manager CLI の機能について説明します。

### CLI ヘルプのアクセス

使用できるすべての CLI コマンドの一覧を表示するには、**pgtool --help** と入力します。

### CLI のバージョン情報へのアクセス

バージョン情報を表示するには、**pgtool --version** と入力します。

## 追加

ポリシーグループリポジトリのポリシーグループをエンティティに割り当てます。

### 構文

```
add [--username=<name>] [--scope=<user/host>] <name> <entity>
```

--username=<name> : 構成リポジトリで使用されている書式で管理者のユーザー名を指定します (例: "jmonroe")。

--scope=<user/host> : ポリシーグループのスコープ (ユーザーまたはホスト) を指定します。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。

<name> : エンティティに割り当てられるポリシーグループの名前を指定します。

<entity> : このエンティティ名は、ストレージバックエンドで使用されている書式で指定します (たとえば、LDAP バックエンドの場合、一意の名前で指定)。

例 3-1 エンティティへのポリシーグループの追加

```
% pgtool add --username=jmonroe UserPolicyGroup1 cn
Role1,o=staff,o=apoc
```

ユーザー "jmonroe" が、エンティティ "cn=Role1,o=staff,o=apoc" に対し、ポリシーグループ "UserPolicyGroup1" を割り当てます。

## 作成

create コマンドを実行すると、新しい空のポリシーグループが作成されます。

## 構文

```
create [--username=<name>] [--name=<policy group name>]
[--scope=<user/host>] [--entity=<entity name>]
[--priority=<priority integer>]
```

--username=<name>: 構成リポジトリで使用されている書式で管理者のユーザー名を指定します (例: "jmonroe")。

--name=<policy group name>: このコマンドは、ポリシーグループの名前を指定します。この名前とスコープを持つポリシーグループがこのレベルにすでに存在する場合、コマンドはエラーを表示して終了します。エンティティポリシーグループは制限されたデフォルト名を持つため、このオプションを --entity オプションと併用することはできません。

--scope=<user/host>: ポリシーグループのスコープ (ユーザーまたはホスト) を指定します。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。

--entity=<entity name>: ポリシーグループが作成されるエンティティ。このオプションを指定しないと、ポリシーグループはポリシーグループリポジトリに含められます。エンティティポリシーグループは制限されたデフォルト名を持つため、このオプションを --name オプションと併用することはできません。

--priority=<priority integer>: ポリシーグループの優先度を指定する整数 (1以上)。エンティティポリシーグループには変更できないデフォルトの優先度が割り当てられているため、このオプションは --entity オプションと併用することはできません。指定された優先度がこの層におけるこのスコープの既存のポリシーグループの優先度と同じである場合、コマンドはエラーを表示して終了します。優先度を指定しないと、1 が割り当てられます。

### 例 3-2 新しいポリシーグループの作成

```
% pgtool create --username=jmonroe --scope=host
--name=NewHostGroup1
```

スコープが「host」である新しいポリシーグループ「NewHostGroup1」を作成します。

## 削除

ポリシーグループを削除します。

## 構文

```
delete [--username=<name>] [--name=<policy group name>]
[--scope=<user/host>] [--entity=<entity name>]
```

--username=<name> : 構成リポジトリで使用されている書式で管理者のユーザー名を指定します (例: "jmonroe")。

--name=<policy group name> : 削除するポリシーグループの名前を指定します。エンティティポリシーグループは制限されたデフォルト名を持つため、このオプションを --entity オプションと併用することはできません。ポリシーグループが存在しないか、一意のグループとして識別できない場合は、コマンドはエラーを表示して終了します。

--scope=<user/host> : ポリシーグループのスコープ (ユーザーまたはホスト) を指定します。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。

--entity=<entity name> : ポリシーグループが保存されるエンティティ。このオプションを指定しないと、ポリシーグループはポリシーグループリポジトリに含まれます。エンティティポリシーグループは制限されたデフォルト名を持つため、このオプションを --name オプションと併用することはできません。

例 3-3 ポリシーグループの削除

```
% pgtool delete --username=jmonroe --scope=host
--name=renamedNewHostGroup1
```

"renamedNewHostGroup1" ポリシーグループを削除します。

## エクスポート

zip ファイル形式のポリシーグループを、特定の場所にエクスポートします。このポリシーグループはポリシーグループリポジトリの一部であるか、あるいはエンティティポリシーグループです。

## 構文

```
export [--username=<name>] [--name=<policy group name>]
[--scope=<user/host>] [--entity=<entity name>] <target>
```

--username=<name> : 構成リポジトリで使用されている書式で管理者のユーザー名を指定します (例: "jmonroe")。

--name=<policy group name> : ポリシーグループの名前を指定します。エンティティポリシーグループは制限されたデフォルト名を持つため、このオプションを --entity オプションと併用することはできません。ポリシーグループリポジトリには、同じ名前で2つのポリシーグループ、ユーザースコープを持つポリシーグループとホストスコープを持つポリシーグループが存在する可能性があります。スコープを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。

`--scope=<user/host>`: ポリシーグループのスコープを指定します。ユーザーまたはホストを指定できます。スコープを指定しないと、デフォルトでユーザーが使用されます。

`--entity=<entity name>`: ポリシーグループが保存されるエンティティ。エンティティポリシーグループは制限されたデフォルト名を持つため、このオプションを `--name` オプションと併用することはできません。このオプションを指定しないと、ポリシーグループはポリシーグループリポジトリに含められます。このエンティティ名は、ストレージバックエンドで使用されている書式で指定します (たとえば、LDAP バックエンドの場合、一意の名前で指定)。

`<target>`: zip ファイルを保存するパスとファイル名。ファイル名を指定しないと、デフォルトで `/tmp/<policy group name>.zip` が使用されます。宛先が書き込み可能でない場合、コマンドはエラーを表示して終了します。

例 3-4 ポリシーグループのエクスポート

```
% pgtool export --scope=host --name=HostPolicyGroup1
--username=jmonroe /tmp/newdir
```

新しいディレクトリ `/tmp/newdir` に作成された `HostPolicyGroup1.zip` に “HostPolicyGroup1” をエクスポートします。

## インポート

特定のソースから、zip ファイル形式で保存されているポリシーグループをインポートします。ポリシーグループは、ポリシーグループリポジトリまたはエンティティに対してインポートできます。

## 構文

```
import [--username=<name>] [--name=<policy group name>]
[--scope=<user/host>] [--entity=<entity name>]
[--priority=<priority integer>] <source>
```

`--username=<name>`: 構成リポジトリで使用されている書式で管理者のユーザー名を指定します (例: “jmonroe”)。

`--name=<policy group name>`: このコマンドは、ポリシーグループの名前を指定します。エンティティポリシーグループは制限されたデフォルト名を持つため、このオプションを `--entity` オプションと併用することはできません。同一の名前とスコープを持つ2つのポリシーグループを同じ場所に作成することはできません。ポリシーグループ名を指定しないと、デフォルトで .zip ファイルの名前が使用されます。この名前とスコープを持つポリシーグループがすでにポリシーグループリポジトリ内に存在する場合、そのポリシーグループは上書きされます。

`--scope=<user/host>`: ポリシーグループのスコープを指定します。ユーザーまたはホストを指定できます。スコープを指定しないと、デフォルトでユーザーが使用されます。

--entity=<entity name> : ポリシーグループが保存されるエンティティ。このオプションを指定しないと、ポリシーグループはポリシーグループリポジトリに含まれます。エンティティポリシーグループは制限されたデフォルト名を持つため、このオプションを -name オプションと併用することはできません。このエンティティ名は、ストレージバックエンドで使用されている書式で指定します (たとえば、LDAP バックエンドの場合、一意の名前で指定)。

--priority=<priority integer> : ポリシーグループリポジトリにおける優先度を指定する整数 (1 以上)。エンティティポリシーグループには変更できないデフォルトの優先度が割り当てられているため、このオプションは --entity オプションと併用することはできません。指定された優先度がリポジトリにおけるこのスコープの既存のポリシーグループの優先度と同じである場合、コマンドはエラーを表示して終了します。優先度を指定しないと、1 が割り当てられます。

<source> : zip ファイルを保存するパスとファイル名。

例 3-5 ポリシーグループのインポート

```
% pgtool import --scope=host --name=NewHostPolicyGroup1
--username=jmonroe --priority=7 /tmp/HostPolicyGroup1.zip
```

HostPolicyGroup1.zip から、名前が “NewHostPolicyGroup1”、スコープが “host”、優先度が “7” であるポリシーグループをインポートします。

## リスト

オプションをまったく指定しないと、ポリシーグループリポジトリ内のすべてのポリシーグループが表示されます。ストレージバックエンドを 2 つ指定すると、ユーザーバックエンドストレージのポリシーグループリポジトリ内のすべてのポリシーグループが一覧表示されます。指定されたオプションに基づいて、list は特定のエンティティ、または特定のポリシーグループを使用するエンティティに割り当てられているすべてのポリシーグループを一覧表示できます。ポリシーグループが一覧表示される際には、名前、スコープ、優先度、エンティティ (該当する場合) なども表示されます。エンティティは、それらを区別する一意の名前で示されます。

## 構文

```
list [--username=<name>] [--scope=<user/host>] [--entity=<entity
name>] [--name =<policy group name>]
```

--username=<name> : 構成リポジトリで使用されている書式で管理者のユーザー名を指定します (例: “jmonroe”)。

--scope=<user/host> : このオプションだけを指定すると、ポリシーグループリポジトリ内に存在する指定されたスコープのすべてのポリシーグループが一覧表示されます。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。-entity オプションと併用すると、エンティティに割り当てられている、このスコープのすべてのポリシーグループが一覧表示されます。-name オプションと併用すると、指定したスコープの指定したポリシーグループを使用するすべてのエンティティが一覧表示されます。

--entity=<entity name> : 特定のエンティティに割り当てられているポリシーグループを一覧表示します。

--name=<policy group name> : 指定されたポリシーグループを使用するエンティティを一覧表示します。

例 3-6 リポジトリ内のポリシーグループの一覧表示

```
% pgtool list --username=jmonroe
```

管理者 “jmonroe” のグローバルポリシーグループを一覧表示します。

```
% pgtool list --username=jmonroe --name=UserPolicyGroup1
```

ポリシーグループ “UserPolicyGroup1” を使用しているエンティティを一覧表示します。

## ログイン

管理者のホームディレクトリ内のファイルに、データストアバックエンドのユーザー名とパスワードを保存します。このユーザー名とパスワードは、将来 pgtool を呼び出すときに使用できます。

この資格情報は、管理者のホームディレクトリの .apocpass というファイルに保存されます。このファイルがすでに存在し、このファイルに正しいアクセス権が設定されていない場合、コマンドはエラーを表示して終了します。ユーザー名を入力すると、パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。ユーザー名が入っていないと、ユーザー名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。ユーザー名とパスワードの認証は、データストアに対する匿名アクセスを使用して行われます。匿名アクセスがサポートされていない場合は、承認済みのユーザー名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。承認済みのユーザー名による認証が失敗する場合、コマンドはエラーを表示して終了します。認証が完了すると、ユーザー名とパスワードのペアが管理者の .apocpass ファイルに保存されます。パスワードは、ホスト / ポート / ベースブートストラップ情報とユーザー名の組み合わせから成る鍵を使用して保存されます。ブートストラップファイルは、オプション引数として指定できます。あるいは、上記のほかのオプションを使用してブートストラップ情報を指定することもできます。どちらの方法も使用されない場合は、pgtool でインストールされているデフォルトのブートストラップファイルからブートストラップ情報が取得されます。ブートストラップ情報が利用できないか、資格情報ファイルが作成できない場合は、コマンドはエラーを表示して終了します。資格情報ファイルが正常に作成される場合は、このストレージバックエンドを使用する後続の pgtool コマンドでユーザー名とパスワードを指定する必要はありません。資格情報ファイルに保存されているユーザー名とパスワードの詳細が使用されます。

## 構文

```
login [--username=<name>] [--file=<bootstrap file>]  
[--hostname=<hostname>] [--port=<portnumber>] [--base=<base  
name>] [--type=<type of back end>]
```

--username=<name>: 構成リポジトリで使用されている書式で管理者のユーザー名を指定します (例: "jmonroe")。

--file=<bootstrap file>: ブートストラップファイルの完全修飾パス。

--hostname=<hostname>: 必要なストレージバックエンドのホストの名前。これは、ブートストラップファイルによって提供される対応する情報の代わりに使用されます。

--port=<port number>: このストレージバックエンドによって使用されるポート番号。

--base=<base name>: このストレージバックエンドのベース。たとえば、LDAP バックエンドの場合、baseDN。

--type=<type of back end>: デフォルトは LDAP。

#### 例 3-7 ログイン

```
% pgtool login --username=jmonroe [メッセージが表示されたら正しいパスワードを入力]
```

"jmonroe" と "password" のエントリが入った ~/.apocpass というファイルが作成され、アクセス権 600 が設定されます。

## 変更

ポリシーグループリポジトリ内のポリシーグループの優先度を変更します。

### 構文

```
modify [--username=<name>] [--scope=<user/host>] <name>  
<priority>
```

--username=<name>: 構成リポジトリで使用されている書式で管理者のユーザー名を指定します (例: "jmonroe")。

--scope=<user/host>: ポリシーグループのスコープ (ユーザーまたはホスト) を指定します。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。

<name>: ポリシーグループの名前を指定します。

<priority>: ポリシーグループの優先度を指定する整数 (1 以上)。指定された優先度がポリシーグループリポジトリにおけるこのスコープの既存のポリシーグループの優先度と同じである場合、コマンドは失敗します。

#### 例 3-8 ポリシーグループの優先度の変更

```
% pgtool modify --username=jmonroe UserPolicyGroup1 15
```

"UserPolicyGroup1" の優先度を 15 に変更します。

## 削除

エンティティからポリシーグループを削除します。

### 構文

```
remove [--username=<name>] [--scope=<user/host>] <name> <entity>
```

`--username=<name>`: 構成リポジトリで使用されている書式で管理者のユーザー名を指定します (例: "jmonroe")。

`--scope=<user/host>`: ポリシーグループのスコープ (ユーザーまたはホスト) を指定します。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザーが使用されます。

`<name>`: エンティティに割り当てられている、ポリシーグループリポジトリ内のポリシーグループの名前を指定します。

`<entity>`: エンティティの名前。

例 3-9 エンティティからポリシーグループを削除する

```
% pgtool remove --username=jmonroe UserPolicyGroup1  
cn=Role1,o=staff,o=apoc
```

ユーザー "jmonroe" が、エンティティ "cn=Role1,o=staff,o=apoc" からポリシーグループ "UserPolicyGroup1" を削除します。

## 名前の変更

ポリシーグループリポジトリ内のポリシーグループの名前を変更します。

### 構文

```
rename [--username=<name>] [--scope=<user/host>] <name> <newname>
```

`--username=<name>`: 構成リポジトリで使用されている書式で管理者のユーザー名を指定します (例: "jmonroe")。

`--scope=<user/host>`: 既存のポリシーグループのスコープ (ユーザーまたはホスト) を指定します。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。

`<name>`: ポリシーグループリポジトリにおけるポリシーグループの現在の名前を指定します。

`<newname>`: ポリシーグループの新しい名前。この名前とスコープを持つポリシーグループがポリシーグループリポジトリ内にすでに存在する場合、コマンドはエラーを表示して終了します。

例 3-10 ポリシーグループの名前変更

```
% pgtool rename --username=jmonroe NewUserGroup2  
renamedNewUserGroup2
```

“NewUserGroup2” を “renamedNewUserGroup2” に変更します。

---

## コマンドの要約

表 3-1 コマンド

コマンド	説明
add	ポリシーグループリポジトリのポリシーグループをエンティティに割り当てる
create	新しい空のポリシーグループを作成する
delete	ポリシーグループを削除する
export	zip ファイル形式のポリシーグループを、特定の場所にエクスポートする
import	特定のソースから、zip ファイル形式で保存されているポリシーグループをインポートする
list	ポリシーグループリポジトリ内のポリシーグループの一覧表示、エンティティに割り当てられたポリシーグループの一覧表示、または指定されたポリシーグループが割り当てられているエンティティの一覧表示を行う
login	ユーザーのホームディレクトリ内のファイルに、このデータストアバックエンドのユーザー名とパスワードを保存する。このユーザー名とパスワードは、将来 pgtool を呼び出すときに使用できる
modify	ポリシーグループリポジトリ内のポリシーグループの優先度を変更する
remove	エンティティからポリシーグループの割り当てを解除する
rename	ポリシーグループリポジトリ内のポリシーグループの名前を変更する

表 3-2 オプション

オプション	説明
-b <base name>, --base=<base name>	ストレージバックエンドのルートエントリを指定する。このベースエントリの書式は、使用されているストレージバックエンドで決まる。たとえば、ルートエントリが o=apoc: --base o=apoc である LDAP ストレージバックエンドなど
-e <entity>, --entity=<entity>	ユーザー、役割、組織、ホスト、またはドメインを表すエンティティを指定する。エンティティの書式は、使用されているストレージバックエンドで決まる。たとえば、ユーザーが "jmonroe" である LDAP ストレージバックエンドの場合は次のようになる。-e uid=jmonroe,ou=People,o=staff,o=apoc
-f <file>, --file=<file>	このコマンドの実行に使用されるブートストラップ情報が挙げられているファイルを完全修飾名で指定する。次に例を示す。-f /tmp/policymgr.cfg
-h <hostname>, --hostname=<hostname>	ストレージバックエンドのホストの名前を指定する。次に例を示す。--host=server1.sun.com
-i <priority>, --priority=<priority>	ポリシーグループの優先度を示す正の整数を指定する。次に例を示す。-i 12
-m <name>, --name=<name>	ポリシーグループの名前を指定する。次に例を示す。--name=UserPolicyGroup1
-p <port>, --port=<port>	ストレージバックエンドのポート番号を指定する。次に例を示す。-p 399
-s <scope>, --scope=<scope>	ポリシーグループの範囲を指定する。この範囲はユーザーまたはホストで、デフォルトはユーザー。次に例を示す。--scope=host
-t <type>, --type=<type>	ストレージバックエンドのタイプを指定する。デフォルトは LDAP。次に例を示す。-t LDAP
-u <username>, --username=<username>	ストレージバックエンドの管理者のユーザー名を指定する。この指定が終わると、パスワードの入力を求めるメッセージが表示される。このオプションを指定しない場合で、ユーザーが pgtool login サブコマンドを使用していないときは、ユーザー名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示される。次に例を示す。--username=jmonroe

表 3-2 オプション (続き)

オプション	説明
-?, --help	このヘルプを表示し、終了する
-V, --version	バージョンを表示し、終了する

# 使用事例

---

---

## 背景

国際的な企業である Magic Insurance, Inc. は、社内のデスクトップ環境全体を Windows NT から Java Desktop System (JDS) の Gnome デスクトップに移行させることにしました。この会社はさらに、主要なワープロを Microsoft Word から StarSuite Writer に、主要なブラウザアプリケーションを Internet Explorer から Mozilla に切り替えたいと考えていました。

会社の IT 管理者である John ができるかぎり簡単に移行できるように作業を監督します。John は、JDS が提供している Configuration Manager を使用してこの移行を行うことにしました。まず手始めに、Configuration Manager を使用して解決する必要のある社内の 3 つの問題を吟味します。

- Customer Care Center (CCC) 部門の責任者の要望に答えて、CCC の社員がコンピュータゲームを起動できないようにします。
- 各部署の「熟練者」サブディビジョンと「初心者」サブディビジョンに対し、異なる構成設定を行います。このサブディビジョンには、経験豊富な社員と新入社員がそれぞれ含まれます。
- 世界各地にひんぱんに出張しなければならない Company Services Center (CSC) の社員に、ソリューションを提供します。

## シナリオ 1 — アプリケーション起動の防止

John は CCC の社員がコンピュータゲームを起動できないようにしたいと考えています。

## ▼ アプリケーション機能のロック

CCC 部門に属している社員の名前は、Configuration Manager 内のこの企業の LDAP ツリー上にある CCC 組織に挙げられています。John は、Gnome 内の「Restrict Application Launching (アプリケーション起動の抑止)」機能を使用して「使用できるアプリケーション」リストからゲームをすべて削除することにしました。

社員は各自のクライアントマシンでこの設定を変更できるので、John は CCC 組織で設定を保護することにしました。その結果、この設定は CCC 組織の全メンバーに対して読み取り専用になります。

- 手順
1. ナビゲーション区画で、「ユーザー」見出しをクリックし、組織ツリー内にある「**Customer Care Center CCC**」を見つけます。
  2. 「アクション」列で、「**Customer Care Center CCC**」の隣りにある「表示」リンクをクリックします。
  3. 「コンテンツ」区画で、「ポリシー」見出しをクリックし、「**Gnome 2.6**」、「封鎖」の順に移動します。
  4. 「アプリケーションの起動」の隣りにある「制限する」チェックボックスを選択します。
  5. 「使用できるアプリケーション」の隣りにあるリストからゲームに対応するパスを選択し、「削除」をクリックします。
  6. 「使用できるアプリケーション」チェックボックスと「アプリケーションの起動」チェックボックスを選択します。
  7. 「封鎖のオプション」列の上部にある「ポリシーのアクション」ドロップダウンリストで、「保護」を選択します。
  8. 「保存」をクリックします。

## シナリオ 2 — 分散したプロファイルの管理

各部署の「熟練者」サブディビジョンと「初心者」サブディビジョンに対し、異なる構成設定を行います。

## ▼ 新しいポリシーグループの作成と構成

John は、2つのポリシーグループ、"Novice" と "Expert" を作成することにしました。さらに、各ポリシーグループに値を設定し、各グループをそれぞれのサブディビジョンに割り当てます。こうすれば、一方のポリシーグループをあとで変更したとしても、ポリシーグループが割り当てられているサブディビジョンのすべてに、変更が自動的に適用されます。John はサブディビジョンからポリシーグループを削除することもできます。

John が初心者に対して無効にしなければならない機能は3つあります。「ツール」メニューの「設定」と「オプション」というサブメニュー、それに StarSuite を実行する能力です。

---

注 – 使用できるコマンドの全一覧は、『StarSuite 7 Administration Guide』の付録を参照してください。

---

始める前に 次に、"Novice" ポリシーグループの設定を構成する手順について説明します。

- 手順
1. ナビゲーション区画で、「ユーザー」見出しをクリックし、続いて「ポリシーリポジトリ」をクリックします。
  2. 「ポリシーグループのアクション」ドロップダウンリストで、「新規」を選択します。
  3. テキストフィールドに「**Novice**」と入力し、「**OK**」をクリックします。
  4. コンテンツ区画で、「ポリシー」、「**StarSuite 7**」、「**StarSuite**」、「セキュリティ」の順に移動します。
  5. 「マクロの実行」ポリシー行で、「値」リストボックスから「決してしない」を選択します。
  6. 「保存」をクリックします。
  7. 「ポリシー」、「**StarSuite 7**」、「拡張」、「コマンドを無効にする」の順に移動します。
  8. **CommandList** テーブルで、「新規」をクリックします。
  9. テキストボックスに「**ConfigureDialog**」と入力し、「**OK**」をクリックします。
  10. **CommandList** テーブルで、「新規」をクリックします。
  11. テキストボックスに「**OptionsTreeDialog**」と入力して「**OK**」をクリックし、続いてコンテンツ区画の「保存」をクリックします。
  12. ナビゲーション区画で「組織団体ツリー」を選択し、「**Novice Users**」を見つけます。
  13. 「**Novice Users**」組織の隣りにある「**Actions**」列で、「表示」をクリックします。
  14. コンテンツ区画で、「ポリシーグループ」見出し、「**Novice**」、「追加」の順にクリックします。
  15. 「保存」をクリックします。

16. "Novice" ポリシーグループを追加したい「初心者」のサブディビジョンごとに手順 12 ~ 15 を繰り返します。

## ▼ “Expert” ポリシーグループの設定

- 手順
1. ナビゲーション区画で、「ユーザー」見出しをクリックし、続いて「ポリシーリポジトリ」をクリックします。
  2. 「ポリシーグループのアクション」リストボックスで、「新規」を選択します。
  3. テキストボックスに「**Experts**」と入力し、「**OK**」をクリックします。

---

注 - Experts の設定値はデフォルトなので、必要な手順はこの3つだけです。

---

## シナリオ 3 — ローミングユーザー用のソリューションの提供

ユーザーがログインしているホストに合わせて Mozilla ブラウザのプロキシ設定を個別に行います。たとえば、北アメリカのホストで稼働しているブラウザは、ヨーロッパのホストで稼働しているブラウザとは異なるプロキシ設定が必要です。

## ▼ プロキシ設定の変更

このシナリオでは、Mozilla の個人設定はユーザー名に照らして保存され、ホスト固有の設定は IP ベースの構成として保存されます。両方とも、中央の LDAP サーバー上に保存されます。さらに、LDAP ツリーにはすでに "North America" ドメインと "Europe" ドメインが含まれており、対応するホストがこれらのドメインのメンバーとして存在しています。John は、使用するホストに応じて、これら 2 つのドメインの Mozilla について、プロキシの設定を変更するのが最良のソリューションだと考えました。

- 手順
1. ナビゲーション区画で、「ホスト (複数)」見出しをクリックし、ドメインツリー内で「**North America**」を見つけます。
  2. 「**North America**」ドメインの隣りにある「**Actions**」列で、「表示」をクリックします。
  3. コンテンツ区画で、「ポリシー」、「**Mozilla 1.7**」、「拡張」、「プロキシ」の順に移動します。
  4. 「システムのプロキシの設定を使用する」行の "**Value**" 列で、「使用する」チェックボックスの選択を解除します。

5. 「インターネットにアクセスするためのプロキシの設定」 行の "Value" 列で、「手動でプロキシ設定」 オプションを選択します。
6. 「HTTP Proxy」 行の "Value" 列で、テキストフィールドに「**proxy.NorthAmerica.com**」と入力します。
7. 「HTTP Port」 行の "Value" 列で、テキストフィールドに「**8080**」と入力します。
8. 「保存」 をクリックします。
9. "**Europe**" ドメインのためにプロキシ名 **proxy.Europe.com** と HTTP ポート **9090** を使用し、手順 **1** ～ **8** を繰り返します。

---

注 - 必要であれば、プロキシの設定を保護することによって、設定の変更を禁止することもできます。

---



## 用語集

---

---

### A

**APOC (A Point Of Control)**

Sun 社内で使用している、Java™ Desktop System Configuration Manager, Release 1.1 のコード名。

---

### C

**Configuration Manager エージェント**

ネットワーク上の管理対象リソースに含まれるモジュールであり、構成ポリシーの要求やキャッシュ化に使用されます。

---

### L

**LDAP**

Lightweight Directory Access Protocol の略。LDAP は TCP/IP 上で動作するディレクトリサービスプロトコルです。LDAP の詳細は、RFC 1777 (The Lightweight Directory Access Protocol) で定められています。

---

## え

エージェント  
エンティティ

「Configuration Manager Agent」を参照。

構成データを割り当てることができる論理オブジェクト。ユーザー、役割 / グループ、組織は、Configuration Manager が認識するエンティティの例です。

---

## け

結合

構成データを要求する場合、クライアントはエンティティ (ユーザー、役割、組織など) という観点から要求を行います。エンティティにデータを提供するには、設定クライアントがまずレジストリレイヤーから関連データを読み込み、コンテキストに従ってエンティティに属すレイヤーに到達するまで、順番にレイヤーのカスタマイズを適用していきます (組織の階層構造を使用してレイヤーとその優先順位を判別します)。クライアントは役割 / グループとユーザーのエンティティを意識するだけですみます。

---

## こ

構成ポリシー

Configuration Manager およびそのポイント製品の動作を制御する単一の規則または規則セット。

構成ポリシーグループ

組織、グループ、ユーザー、またはホストにリンクできる、構成ポリシーのコンテナ。構成ポリシーグループは、構成ポリシーリポジトリ内に保存されます。

構成ポリシーテンプレート (CPT)

ポリシーを形成する構成設定用データの場所、データのビジュアル化に使用されるユーザーインターフェースの説明、そのデータの制約などが示された XML ファイル。

構成ポリシーリポジトリ

構成ポリシーグループが保存されるコンテナ。

---

## ほ

ポリシー

「設定ポリシー」を参照。

ポリシーグループ

「構成ポリシーグループ」を参照。

